

当院で実施される下記の臨床研究はオプトアウトにより実施します。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、これらの研究にご自身の診療情報を使用してほしくない場合は各研究の担当者までお問合せください。

研究課題	術後感染予防抗菌薬の使用量と手術部位感染に関する調査
担当部署及び研究責任者	薬剤部 仙波 秀彦
利用目的	近年、薬剤耐性の観点から抗菌薬適正使用の重要性が増しており、当センターにおいても感染症治療だけではなく、周術期における予防抗菌薬についても積極的な抗菌薬適正使用支援チーム（以下、AST）および感染制御チーム（以下、ICT）の介入を行っております。予防抗菌薬は「術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン」において患者の体重に応じた適正な用量が推奨されているものの、推奨量と術式ごとの感染リスクへの影響についての報告は現状では少なく、感染リスクの懸念から適正量を超えた予防抗菌薬の使用も散見されます。 本研究は、手術前に予防抗菌薬として使用されるセファゾリンの投与量と術式毎の術後感染と副作用等の関連性を後方視的に解析し、今後の更なる抗菌薬適正使用支援の確立を目指します。データの収集には、診療録や感染対策連携共通プラットフォーム（以下、J-SIPHE）等を使用し、入院患者情報（入院期間、薬剤情報、検査値、既往歴、感染状況等）、抗菌薬使用量等を集計し傾向を調査します。 本研究では、周術期における抗菌薬の適正使用に関する情報を充実させることを目指しています。これにより、今後のASTおよびICTにおける業務のさらなる向上と発展に寄与することが期待されます。

研究の対象者及び対象期間	手術患者 500-1000 例 対象期間：令和 5 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日
研究の方法	手術前に予防抗菌薬として使用されるセファゾリンの投与量と術式毎の術後感染と副作用等の関連性を後方視的に解析します。データの収集には、診療録や感染対策連携共通プラットフォーム（以下、J-SIPHE）等を使用し、入院患者情報（入院期間、薬剤情報、検査値、既往歴、感染状況等）、抗菌薬使用量等を集計し傾向を調査します。
問合せ先	+81-048-536-9900 内線 6036 薬剤部 仙波 秀彦（せんば ひでひこ）